

笑顔いっぱいの屋代小をめざして！なかよし月間

【校長講話「ことばってふしぎだな」】11月4日から、なかよし月間が始まりました。12日の校長先生のお話は、風船のように心がふくらむ「あったかことば」、心がわれてしまう「ちくちくことば」についてのお話でした。小学生がつくった「ふうせん」という曲の合唱と、北原白秋の詩「ひとつのことば」を聴きました。



「ふうせん」

人の心はふうせん あっちへいたり こっちへきたり 言葉の風で動く
 いやなことを言われれば 針が飛んできて ふうせんにささって
 言われた人の心の中は 何も無い

でもね 少したてば ふうせんができる 空気を入れるには
 「あの時はいじめてごめん。 いっしょに遊ぼう。」

言葉って 不思議だな ふうせんをわったり ふくらましたり
 本当は われない方がいいよね ずーっと ずーっと



「ひとつのことば」：北原白秋

ひとつのことばで けんかして ひとつのことばで なかなかおり

ひとつのことばで 頭が下がり ひとつのことばで 心が痛む

ひとつのことばで 楽しく笑い ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに ひとつの心をもっている

きれいなことばは きれいな心 やさしいことばは やさしい心

ひとつのことばを大切に ひとつのことばを美しく



金管バンド最後の演奏！11月3日

森将軍塚祭に、金管バンドが参加しました。屋代駅から、将軍塚までパレードをし、公園で演奏を披露しました。この演奏が6年生最後の演奏となりました。

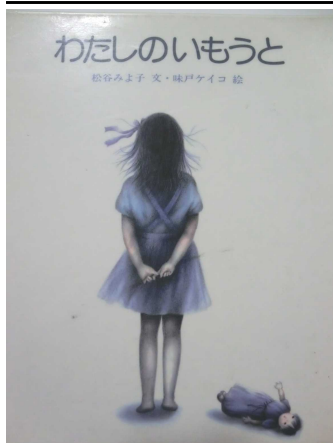


資源回収ありがとうございました

第2回資源回収がフレックス様駐車場をお借りして行われました。心配された雨も、作業中には降らず、無事終了することができました。ご協力に感謝です。



笑顔いっぱいの屋代小をめざして！ふれあい集会



なかよし月間に先がけて、10月30日にふれあい委員会による集会が行われました。

みなさんは『わたしの妹』という本を知っていますか。本当にあったいじめのお話です。妹は、転校した学校でいじめにあいます。小学校4年生の時です。

言葉がおかしいと、笑われました。とびばこができないと、いじめられました。クラスのはじさらしと、ののしられました。くさい、ぶた、と言われ、妹が給食を配ると受け取ってくれませんでした。とうとう、だれ一人、口をきいてくれなくなりました。妹は、学校でいつも一人ぼっちでした。妹の体にはつねられたあざがたくさんありました。そして、とうとう学校へ行けなくなりました。ずうっと部屋にとじこもって、本も読みません。音楽もききません。だまって、どこかを見ているのです。ふりむいてもくれないのです。妹をいじめた子たちが、高校生になった時、妹は部屋で折り紙を折るようになりました。赤いつる、青いつる、白いつる、つるにうずまって。でも、やっぱりふりむいてはくれません。口をきいてくれません。ある日、妹はひっそりと死にました。遊びたかったのに、勉強したかったのに。

みなさん、おもしろ半分、ふざけ半分の気持ちが、いじめになります。自分がされていやだと思うことは人には絶対にしないようにしましょう。屋代小学校の子どもたちは、みんな仲良し。みんな優しい人でいましょう。もっともっと、仲良くなるためにこれからみんなでゲームを楽しみましょう。



『共に育ち、共に生きる』PTA講演会

PTA教養人権委員会主催の講演会が13日に開催されました。講師の長岡秀貴先生（侍学園理事長）は、不登校やひきこもりになったたくさん子どもや大人と接してこられました。その経験から親として何を大切にするかをお話いただきました。過干渉が子どもの心をゆがめていく。Youメッセージだけでなく、Iメッセージで伝えていく。先生と親は子どもの未来をつくるためのバディである。ストレスをとりのぞこうとするのではなく、子どもの脳の中に「快」をつくってあげる。一番大きな「快」は、『あなたは必要です』と思われること。三つの幸せの中で一番大切なのは、「してあげる幸せ」。先生のお話は子育ての指針となるものでした。貴重な講演会となりました。

